

令和2年度第1回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	令和2年7月21日（火）午後2時～午後4時	
会場	白山会館 1階 芙蓉	
出席者	出席委員	山賀会長、西條副会長、井下田委員、石本委員、内山委員、 遠藤委員、黒川委員、小松委員、斉藤委員、関谷委員、 鶴巻委員、西海委員、村井委員、横木委員 計14名
	事務局	環境部長、循環社会推進課長、廃棄物対策課長 ほか
主な議事	<p>1 開会</p> <p>2 報告 (1) 近年のごみ量の推移等について (2) 令和2年度市民還元事業予算について</p> <p>3 議題 家庭系ごみ指定袋等のごみ処理手数料の使途について (事業見直し)</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	
	<p><審議の進め方></p> <p>それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。</p>	

主な議題

(主な質問・意見等)

報告(1) 近年のごみ量の推移等について

- プラスチック収集の情報について。国は今後、プラごみをまとめて「プラ資源」とする区分を設ける情報があるが、情報提供いただきたい。
市～ 国のほうからまだ詳細な情報がきていない。
- ペットボトル排出量について。今後は減少する傾向か。
市～ 商品そのものが、ペットボトルから紙製に変わりつつあり、影響があるかもしれない。
- 他都市と比較すると、市の1人1日あたりのごみ量が多いのはなぜか。このことについて市はどうとらえているか。
市～ ごみの分別や制度が都市により異なるため、前提条件がそれぞれ違うことから、一概に比較することは難しい。詳細について改めて確認する。
- ごみ量が多いことに対する市の考え方を提示願う。
- リサイクル率の計算方法は国で統一されているか。
市～ 統一されている。
- 「枝葉・草でリサイクル率が良くなっている」というような、内訳が分かる資料をいただきたい。
市～ 用意する。

報告(2) 令和2年度市民還元事業予算について

<質問・意見等なし>

3 議題 家庭系ごみ指定袋等のごみ処理手数料の使途について

(事業見直し)

- 2. クリーンにいがた推進育成事業について。人数が多いが、人口あたりに何人という数か。
市～ 各自治会・町内会のほうから推薦いただき、何人でも可として登録をいただいている。
- 人数が多いが、活動が見えない。
市～ 優良事例を具体的にご紹介し、全体の底上げを行いたい。
- ごみ集積場清掃をごみ当番制で各自治会・町内会が行っていること、

ごみ分別が定着したことも踏まえ、見直しを願う。

- 4. 地域清掃等への助成について。旧巻町では「クリーン作戦の日」があったが、新潟市と合併した際になくなったという情報がある。経緯を教えてください。また、自治会が行う地域清掃は助成されるか。

市～ 個別の事例は不明だが、クリーン活動は出張所等が各々引継ぎ行っている。区役所主催でない、自治会主体となる地域清掃であれば、助成対象となる。

- ごみ処理手数料収入は、年々収入減少が見込まれるが、市として継続したい事業、削減したい事業を教えてください。

市～ 11. にいがた未来ポイント事業は廃止する。その他は、委員の意見を踏まえ方針を決めたい。

市～ 市民に還元するというのが前提にある。集団資源回収は行政収集のコストと比較すると低く抑えられ、優秀な回収システム。継続する方向性。

- 14. 地域活動への支援について。今年度はコロナ禍で利用できないが、来年度は今年度と同様の予算をつけることは可能か。

市～ 市民生活部が行っているため、詳細は担当部署に問い合わせしてほしい。

- リサイクル全般について。業者の設備投資が整っていないことによる中間処理コストが高いことが問題ではないか。PPP 及び PFI や AI などを利用するようなことを検討すべきではないか。

市～ 業者の設備投資については、今現在不明。大きい括りで市民還元をどう考えていくかも含め、今後ご意見いただきたい。

市～ 法律により、処理方法が決められているものがある。国のほうも、プラにおいては中間処理が省略できるように進める方向で検討している。リサイクルも大切なことであるが、その前の「排出抑制」をしていくのが、これからの大きな流れであるため、それについて検討する必要がある。

- 資源を地元から回収し、海外依存を無くすべきではないか。大きな視点から見ると、海外から資源を調達しているから不具合がでてきている。県内にある既存の企業で資源をまかなえるようにマッチングを行うような取り組みを願う。

- 海外へ依存しがちであるが、地産地消ができる仕組みがあるとよい。

- 市民還元事業は、これまで市民からの要望をかなえる形で行ってきた。市がごみ処理をするとき他に頼らないようにするために全て経費を使ってもよいのではないか。個人ではなく、市全体としてプラスとなるような使い方がよいのではないか。

市～ 検討したい。

- 地域に資源を循環させていくということを考えると、かなり広い話にはなるが、廃棄物処理法に基づき検討できるとよい。各論の話は、各々の目標が分からないため、課題が委員には分からない。見直し継続する事業については、今後検証できるように、このタイミングで目標を定めてはどうか。

市～ 検討したい。

- 10. バイオマス利活用について。現在廃食用油の活用だけだが、今後さらに広くバイオマス活用もするか。

市～ 飼料化のままでよいか、他事業に強化するかを踏まえ検討したい。

- 未来投資的なことを行いたいというのであれば、それに絞った形で予算をつけていただきたい。また、リサイクル率一位の千葉市は、新潟市とどう違うのか。

市～ 意見を参考に検討する。千葉市は拠点回収で事業系古紙も対象としている。新潟市は家庭系のみを対象としている。

- 資源を地元から回収し、海外依存を無くすべきではないか。県内にある既存の企業で資源をまかなえるようにマッチングを行うような取り組みを願う。また、若年層は環境に対する意識が低いというデータがあり、若年層に効果的な啓発はどのようにすべきか議題としていただきたい。

- 私の住む地域では、漁師の方からごみについて話を聞いたうえで、海岸のごみ拾いをする環境学習を行っている。実体験を通して学べる取り組みは良いと思うため、紹介する。

- 市民還元事業は大人向けが多い。簡単などころからはじめてみてもよいのではないか。ごみを分別するという小さなことから習慣化する取り組みはよいと思う。

- 未来投資的な事業を予算をつけて行えたらよい。環境教育においては、総合学習で清掃審議会委員が派遣されるような仕組みがあってもよいと思う。海岸清掃とまた違う形で、視野が広まってよいのではないか。

- ごみを処理して最終的にでてきたものいかに利用できるかが大事。例えば、日本は、化学肥料（窒素）を海外から輸入しているが、日本にもともとある糞尿等利用すればまかなえる。また、「食育フォーラム」を開催したとき、生徒たちはそこで「食品ロス」について考えるきっかけとなった。このような行政がバックアップするようなくみがあるとよい。

市～ 整理させていただく。

4 その他

<意見・質問等なし>

傍聴者	1名
-----	----